

さいたま市立病院の建て替え工事が竣工 ～ガン対策の充実、周産期医療、救急救命、災害時拠点病院

新病院は、現病院の敷地内（緑区三室）で建て替え工事が進められ、病床数が637床（70床増）となり、がん対策の強化のため「緩和ケア病棟」も新設された。出産時の母子をともにケアできる周産期医療の充実が図られ、また、これまでの2次救急よりさらに重篤な患者を受け入れられる3次救急に対応する救命救急センターの指定を目指す。

高度な放射線治療を行う「サイバーナイフ」が導入され、県内では4か所目の整備になる等、最先端の医療機器が導入される。地下水の利用で断水時は3日分の容量を確保、非常用電源の容量を拡充して災害時の応急処置スペースとして活用し、災害拠点病院としての充実を図る。今後さらなる病院の充実のためには、医師、看護師など医療従事者の充実確保に努めることも、重要な課題となってくる。



小柳と手術支援ロボット「ダヴィンチ」

小柳よしふみの地域活動



地域の防災訓練

防災士として防災アドバイザー協議会での活動



秋のごみゼロ

市民清掃活動
年に2回開催される地域の美化活動



ミニ浦和

子どもだけでつくる子どものまちを応援



さいたま国際マラソン

第5回となる国際マラソンは大盛況



台風19号避難所開設

台風19号では市内192か所で避難所開設



地域の餅つき大会

餅つき大会は、地域の絆づくりに貢献



十二日まち

PTA役員としての巡回活動も



浦和サッカーフットサル大会

フットサル大会の支援、お手伝い

ご意見・ご要望をお聞かせください

お名前 _____ TEL _____

ご住所 _____

ご来場をお待ちしております！ 第35回 市政報告会

クイーンズ伊勢丹3階

日時：令和2年 1月26日（日）
18:30～19:45

会場：北浦和カルタスホール
第1会議室（北浦和1-7-1）

入場
無料



「後援会イベントでハイ、チーズ！」

市政へのご要望・ご質問は

小柳よしふみ 事務所

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F

TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233

E-mail info@koyanagi.jp

ホームページ http://koyanagi.jp/

ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/



こやなぎ

小柳よしふみ

小柳よしふみ 検索
市政レポート
2020.1 vol.38

小柳よしふみ 事務所 〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町23-19-2F TEL: 048-799-3232 FAX: 048-799-3233
E-mail info@koyanagi.jp ホームページ http://koyanagi.jp/ ブログ http://ameblo.jp/y-koyanagi/

オリンピックイヤーに 飛躍するさいたま市！

～躍動と日常を楽しめる街であるために～

皆さまにおかれましては、新たな気持ちで清々しい新年をお迎えのことと
思います。皆さま一人ひとりの想いが成就する、素晴らしい2020年になりま
すようお祈りいたします。

本年は、多くの皆さんが待ち焦がれたオリンピックイヤーです。大きな歴史
の節目となります。さいたま市にとっては、サッカー、バスケットボールの会場
として世界にアピールする絶好の機会であり、日本中が躍動する中、本市とし
ての飛躍につながる取り組みが重要となります。本市の魅力の向上を図ると
ともに、世界中から本市を訪れる多くの皆さんに、しっかりと魅力を伝えてい
かねばなりません。また、事業者には事業拡大、発展のチャンスとしていた
だき、また、市民の日常を改めて振り返り、住みよい街へさらなる歩みを始める
機会とすることが重要と考えています。

昨年も自然災害、本市においては、特に台風19号による甚大な被害を受けま
した。毎年のように起きる自然災害に対する備えも進めなければなりません。
本市は、「災害に強い街」と言われてきましたが、例えば本市直下型地震にお
いては、死者2,000人を超える被害想定が出されています。もしかしら、
「まだ大きな災害が来ていない街」なのかもしれません。小柳よしふみは、議
員として、また防災士としての活動を通じて、「本当に災害に強いさいたま市」
づくりに努力してまいります。

令和という新しい時代が始まり、オリンピックイヤーを迎えて、多くの市民、
特に子どもたちが将来への夢を膨らませる良いタイミングかと思ひます。躍
動と日常を楽しめるさいたま市の発展のために、努力してまいります。本年も
小柳よしふみの活動にご期待いただきますよう、お願い申し上げます。

- 昭和40年(1965年)8月27日生まれ A型
- 浦和市立高砂小、岸中、県立浦和高、
慶應義塾大商学部卒業。
- 埼玉銀行を経て、警備会社を経営。平成23
年よりさいたま市議会議員(浦和区)。
- 平成27年(2期目)、平成31年(3期目)
浦和区にて当選。
- 予算委員会(委員長)
まちづくり委員会/議会運営委員会
大都市行財政将来ビジョン特別委員会



TOPICS

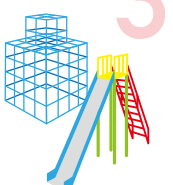
さいたま市の人口131万人、 浦和区は2番目

本市の人口は、1,313,781人(12月1日現在)
で、前年同月比+11,866人。南区の
191,059人が最大であり、浦和区は
164,339人で10区中2番目となった。



公園遊具の修繕完了は、令和2年度中

国の安全基準の変更で使用禁止になっ
ている公園遊具の修繕工事は、令和2年度中
に修繕工事が完了し、黄色のテープが取れる
ことになる。状況によっては、撤去のみとなる
箇所もあり、再設置を進める必要もある。



さいたま市立病院 新病院がオープン

さいたま市立病院は、建て替え工事が竣工
し、12月29日にオープン。外来受付は、令和
2年1月6日から開始となる。総工費は約
370億円(関連記事:裏面)。



市民会館うらわは、浦和駅西口駅前へ移転

市民会館うらわは、浦和駅西口駅前への移転が決定。
現状と同規模ながら、用途に応じたホール機能や多用
途のスタジオが完備される。現会館は、
耐震対策のため令和2年度末で供用停
止となる。跡地は、NHKと協議中。



12月定例会TOPICS

12月定例会は、市長提出議案59件、議員・委員会提出議案6件を可決（修正可決含む）・同意し閉会。市議会議員の議員報酬、期末手当等について、報酬等審議会から引き上げの答申があったが、引き上げ分の災害対策としての活用につき市議会より執行部への申し入れが議決された。議員報酬、期末手当及び費用弁償の増額は延期となった。

2020年はオリンピックイヤーのために警備等の手が足りず、夏祭りなどの中止が決定しているが、後年の夏祭りなどへの支援継続を市議会から執行部へ求めている。



予算委員会から

小柳よしふみが委員長を務める予算委員会では、台風19号被害への災害対策費、都市公園遊具の修繕費用、生活困窮者学習支援事業、東京2020大会関連事業などの補正予算議案が可決された。



12月補正予算の特徴	●令和元年台風19号被害からの早期復旧、迅速な対応	計740,558千円
	防災対策、農業関連復旧、都市公園整備復旧など	
	●東京2020大会への取り組み推進	計553,476千円
	2020大会市内イベント、装飾事業、ボランティア運営事業等	【債務負担行為】
	●七里駅舎改修事業	限度額：計2,791,454千円
	橋上駅舎化、南北自由通路の整備	【債務負担行為】

更なる災害復旧支援を求める付帯決議を採択！

小柳よしふみが提出者となった被害者のニーズに合ったきめ細やかな支援対策を求める決議が全会一致で可決された。2月の補正予算などで追加対策が盛り込まれる。被害を受けた福祉関係の施設やレズランド等のスポーツ施設の早期復旧に向けた支援、災害対策を進めていく。



今後の災害対策について

風水害の脅威に対する対応が急務である。

現在、市議会では令和元年台風19号災害対策調査特別委員会にて調査検討中。地元自治会や自主防災組織と行政の連携の在り方、聞こえにくい防災無線に代わる情報伝達の方法やペット同行避難の在り方、洪水の危険時における戸田市など近隣市からの避難者の受け入れ体制等、改めて検討することは多い。災害時に連携できる国、県、また民間施設との連携も進める必要があり、特に福祉避難所の収容力は大きな課題である。直接死よりも関連死がはるかに多かった熊本地震の事例などを見ても、避難所の収容力不足の問題、在宅避難への対応等も重要課題である。



浸水被害を受けた住宅

まちづくり委員会から

小柳よしふみは、まちづくり委員会において都市計画、災害対策、浸水被害対策の3テーマについて議案外質問を行った。



1 街の成長と都市計画について

Q 適正人口と現状についての認識と、街の成長と人口増加について、どう考えて都市計画を進めているのか？

A 区域マスにて将来10年間の適正人口の目標値を定めているが、想定を超えた人口流入が続いていて行政サービスの向上に向けた対策が必要。むやみに人を増やすという施策ではなく、就労環境を作っていくことが重要と考える。



住みよい街であるためには、適正な人口、商業、提供できる行政サービスのバランスが重要と考える。むやみに人口が増えれば良いというのではなく、社会情勢の変化も織り込みながら、検討していく必要がある。また、都市計画と住宅政策は密接な関連があるため、同じ局の方が連携が取れると考えている。



2 防災都市づくり計画の進捗について

Q 大規模地震時の災害リスクの高い地区19か所を推進地区候補とした。計画では、優先的・重点的に改善するとされている地区に対する特化した対策が必要と考えるが、取り組み状況は？

A 準防火地域の指定や感震ブレーカーの導入、専門家の派遣事業等により地区計画の策定支援を行っている。防災まちづくりが進むように、積極的な検討をしていきたい。



延焼リスクと避難困難リスクを勘案し、災害リスクの高い地域を公表している。リスクを軽減するような施策、市民活動に対する具体的な支援がないとただ危険を指摘しただけになる。災害に強いまちづくりを進めるための積極的な対策を求める。



3 藤右衛門川の浸水被害対策について

Q 藤右衛門川の浸水被害対策としての改修工事の進捗、対策の効果を問う。

A 改修工事の実施には、埼玉県部分の対策工事が必要であった。協議を重ねてきたが、今般埼玉県として対策工事の発注が整ったと聞いている。終わり次第、さいたま市部分の工事を進め、今年度内の完了を見込んでいる。



長年に渡る懸案事項だった藤右衛門川流域の浸水被害対策が前進し、浦和区の本太や前地地区、緑区などでの浸水の心配が大幅に減少することになる。水の流れがよくなり、毎年数千万円かかっていた川底土砂の浚渫費用の軽減も見込まれる。



さいたま市本庁舎整備検討調査

浦和の街の将来を考えない移転議論はNO！

平成30年5月に出された「さいたま市本庁舎整備審議会答申」を踏まえて、諸条件を満たす候補地があるかについての調査結果が出た。

候補は①食肉中央卸売市場街区（大宮区吉敷町2丁目他）②コクーン2・3街区（同吉敷町4丁目）③さいたま新都心バスターミナルほか街区（大宮区北袋町1丁目）の3か所が示された。これまで本庁舎整備審議会において議論を重ねてきたが、議論のテーマは本庁舎をどうするのかということに終始している。さいたま市全体の発展、浦和のまちの将来像を描く中で、本庁舎の在り方や位置なども議論になってくるものではないのだろうか。さいたま市のまちづくりの中心に位置づけられる2都心である浦和、大宮の個性を生かしたバランスの良い成長発展が、さいたま市の健全な発展につながるものと考えている。

